



部門別事業報告

VII 環境調査

VIII 母子保健

IX 健康支援

X 結核予防

XI 諸行事

環境調査

作業環境測定は有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずるための重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定やダニ又はアレルゲン検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように管理が求められている。

■実施状況

平成20年の世界的な経済不況により、測定件数は前年より10%ほど減少している。作業環境測定(労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定)を実施した事業場は延べ466事業場であった。延単位作業場所は1,455箇所(前年1,588)で、その管理区分の内訳は、第1管理区分(作業環境管理が適切である)が1,030箇所(70.8%)、第2管理区分(作業環境管理になお改善の余地がある)が175箇所(12.0%)、第3管理区分(作業環境管理が適切でない)が250箇所(17.2%)である。第2・第3管理区分を併せた425箇所(29.2%)は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。

測定項目別にみると、粉じん、特定化学物質及び騒音の第2・第3管理区分の割合が高く、特に特定化学物質は31.1%と前年(16.5%)より15%高くなった。新規に行われたホルムアルデヒド取扱い場所の影響が大きい。また、労働安全衛生法第65条によらない測定(管理濃度等が設定されていない物質、環境改善のための測定など、評価基準による評価をしない測定)があり、その他の項目としての件数は172件で昨年より29件増加した(表1,2)。

作業環境測定以外の環境測定では、室内空気環境中の揮発性有機化合物(VOC)や石綿粉じん測定、学校環境衛生基準によるダニまたはダニアレルゲン検査、公衆浴場等のレジオネラ属菌検査を実施した(表3)。

■作業環境測定において実施している主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	
	ろ過捕集法	重量分析法
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法, 液体クロマトグラフ法
	検知管法	
	液体捕集法	吸光光度法

表1 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

()内は%

区 分 (測定項目)	測定件数 * 1	測定実施事業場 延数* 2	延単位作業場 所数* 3	延単位作業場所の管理区分内訳 (割合%) * 4		
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
計	12,496	466	1,455	1,030 (70.8)	175 (12.0)	250 (17.2)
粉じん(石綿を除く)	4,554	153	421	288 (68.4)	39 (9.3)	94 (22.3)
特定化学物質	1,378	132	212	146 (68.9)	16 (7.5)	50 (23.6)
金 属	370	25	55	46 (83.6)	8 (14.5)	1 (1.8)
鉛	88	10	14	14 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
有機溶剤	4,130	268	609	491 (80.6)	72 (11.8)	46 (7.6)
騒 音	1,804	35	144	45 (31.3)	40 (27.8)	59 (41.0)
その他*5	172	25				

* 1 : 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数

* 2 : 測定項目ごとの実施事業場延数 (総数は1項目以上の実施事業場延数。ただし、その他の項目を除く)

* 3 : 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数 (単位作業場所: 作業環境測定結果の及ぶ範囲)

* 4 : 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合 (割合は計算上、合計が100%にならない場合がある)

* 5 : 作業環境測定であるが、結果の評価を実施しなかった測定の総件数及び事業場延数 (分析のみの測定を含む)

表2 管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

(安衛法第65条の2第1項)

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど(95%以上)の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表3 作業環境測定以外の環境測定実績

名 称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			212
揮発性有機化合物(VOC)の室内空気環境測定	官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について	ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン	0
室内空気環境中の石綿測定	学校環境衛生基準	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, p-ジクロロベンゼン	161
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校環境衛生基準	ダニアレルゲン	40
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条例, 旅館業法および同法施行条例に基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	7

母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発症を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け6つの病気を対象とした先天性代謝異常検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

1. 先天性代謝異常検査

■実施状況

平成21年度の先天性代謝異常検査人数は11,025人であった。再採血（2回目）検査人数は319人、再々採血（3回目）検査人数は19人であった（表1）。

精密検査対象者数は44人（全体の0.39%）で、内訳はアミノ酸代謝異常検査1人、ガラクトース血症検査7人、先天性甲状腺機能低下症検査28人、先天性副腎過形成症検査16人、先天性甲状腺機能低下症検査と先天性副腎過形成症検査の複数項目が8人であった。当協会では再採血（2回目）以降の検体についても再検対象項目に関わらず、初回採血同様に全項目検査を実施している。その結果、精密検査対象となったのは9人であった。内訳は、先天性甲状腺機能低下症検査が8人、先天性副腎過形成症検査が1人であった。

■検査方法

生後4～6日の間に足の裏（踵）から極少量の血液を採取し、アミノ酸代謝異常であるフェニルケトン尿症・楓糖尿症・ホモシスチン尿症とガラクトース血症、先天性副腎過形成症、先天性甲状腺機能低下症の6つの病気について次の方法によって検査を実施した。

精密検査対象者44人について医療機関に診断名等を追跡調査したところ、35人の回答を得た。診断結果内訳を表2に示した。このうち、確定診断名の回答があったのは6人で（H22.12月現在）、先天性甲状腺機能低下症（クレチン症）が4人（初回採血検査人数の0.036%）、21-水酸化酵素欠損症（単純型）が2人（同じく0.018%）であった。21-水酸化酵素欠損症（単純型）と診断された1人は、初回検査において21-水酸化酵素欠損症のスクリーニング検査値は正常であった。他の項目のスクリーニング検査で所見が見られ“再採血”となり、再採血検査で全項目を検査したことが発見につながった症例であった。この症例は、低体重児であり、生後早期の検査では経腸栄養が不十分であったり生理調節の未熟性などにより検査値に現れなかったものと推測された。

アミノ酸代謝異常：高速液体クロマトグラフィー
 ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法
 先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法
 先天性甲状腺機能低下症：酵素免疫測定法

表1 検査成績

() 内は%

初回採血	内訳	初回採血検体検査人数 11,025人			
		アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性甲状腺機能低下症	先天性副腎過形成症
初回 (1回目)	正常	11,019 (99.95)	10,903 (98.89)	10,892 (98.79)	10,934 (99.17)
	要再採血	5 (0.05)	119 (1.08)	121 (1.10)	89 (0.81)
	要精密検査	1 (0.01)	3 (0.03)	12 (0.11)	2 (0.02)
再採血 (2回目)	正常	3 (0.03)	114 (1.03)	112 (1.02)	67 (0.61)
	要再採血	0 ※[1]	0	0 ※[16]	7 (0.06)
	要精密検査	0	4 (0.04)	8 (0.07) ※[5]	11 (0.10) ※[1]
再々採血 (3回目)	正常	0	0	0	5 (0.05)
	要再採血	0	0 ※[1]	0	0
	要精密検査	0	0	0 ※[3]	2 (0.02)

※ [] : 低体重児であり、2回目以降の検査で全項目の検査を実施したことで、新たに所見のあった人数

表2 診断名内訳

診断名	件数
計	35
ガラクトース高値	1
一過性ガラクトース血症	3
クレチン症	4
クレチン症 未確定	2
クレチン症疑い	4
クレチン症疑い・副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	※[1]
一過性甲状腺機能低下症	3※[1]
一過性甲状腺機能低下症・副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	※[5]
21-水酸化酵素欠損症 単純型	1
21-水酸化酵素欠損症 単純型・一過性甲状腺機能低下症 副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	※[1] 2
その他	1
正常	5※[1]

※ [] : 低体重児であり、2回目以降の検査で全項目の検査を実施したことで、新たに所見のあった人数

2. 胆道閉鎖症マスキング検査

■実施状況

平成21年4月～21年3月までの出生児数は9,819人であった。スクリーニングを受診した乳児は8,768人、受診率89.3%であった。出生児は年々減少する一方だが、受診率はここ数年90%前後を保っている。

一次スクリーニングの結果、28人が二次の対象となった。そのうち、3次スクリーニングの対象となった出生児数は昨年同様0であった。

胆道閉鎖症の発生率は出生7,900人に対して1人と言われている。早期に診断し、生後60日以内に手術を受ければ良好な予後が期待される。

■検査方法

保護者の方が便の色を調べ、見本の色調と比較して用紙に記入、1ヶ月健診の際に担当医師へ提出する。健診医により記載された色調を確認し、スクリーニングを実施する。

表 検査成績

	〈 〉内は人数、()内は%
出生児数	9,819
検査人数	8,768 (89.3)
1次スクリーニング陽性者	28
2次スクリーニング結果	<ul style="list-style-type: none"> ・異常なし 〈21〉 ・一過性胆汁うっ滞症 〈1〉 ・ウイルス性肝障害 〈1〉 ・生理的黄疸 〈2〉 ・確認中 〈1〉 ・結果記載なし 〈2〉
3次スクリーニング対象者	0

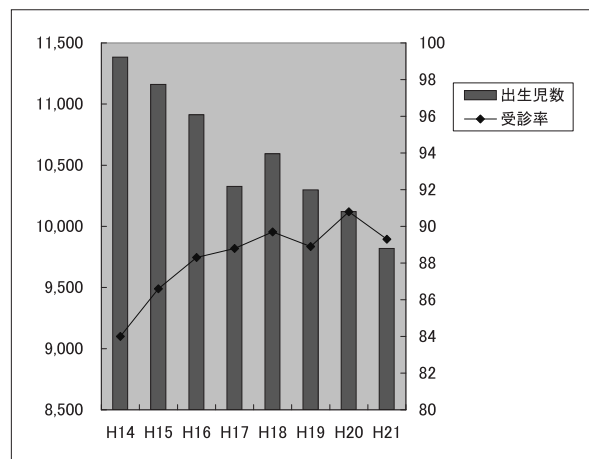


図. 出生児数およびスクリーニング受診率の年度別推移

健康支援

1. 健診の事後措置

■集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明の依頼を受け対応した。
平成21年度の依頼数は、34団体、114回であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	34	114
市町村	2	12
事業所	31	101
学校	1	1

表2 職種・部門別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	12	101	1
保健師	11	41	0
管理栄養士	1	33	1
健康運動指導士	0	13	0
臨床心理士	0	14	0

■一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成21年度実施数は、保健指導 9,733名、栄養指導 6,469名であった。ミニ栄養講話も実施した。

■レディースドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成21年度実施数は 116名であった。

■専門ドックの対応

後日専門医による結果説明終了後、希望者へ保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成21年度実施数は、保健指導 142名、栄養指導 92名であった。

■労災保険二次健康診断の対応

二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。
平成21年度実施数は 430名であった。

2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理や健康教育のため、外部の専門機関に保健師派遣を委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。

平成21年度、4団体へ計47回派遣した。

【事業内容】

- ・事業所職員の健康管理、健康教育
- ・日常の健康相談、保健指導
- ・健康診断の事後措置
- ・必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加など、産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

3. 相談員派遣

岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の相談員として、平成21年度は63回派遣した。

4. 電話相談

当協会で開催している健康診断結果・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供等 557件の電話相談に対応した。

表 団体内訳

団 体	件 数	主 な 内 容
計	557	
市町村	299	結果の意味・受診医療機関の選択
事業所	245	結果の意味・受診医療機関の選択
学 校	13	結果の意味

5. 講演会講師派遣

平成21年度の派遣協力は、43団体143回であった。テーマは、「メタボリックシンドロームの予防」が中心であった。

表1 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な テ ー マ
計	43	143	
市 町 村	12	49	ウォーキング・メタボリックシンドロームの予防
事 業 所	28	91	作業環境管理・運動の必要性・メタボリックシンドロームの予防
学 校	3	3	卒業後も健康な生活をするために

表2 職種別内訳

職 種	地域部門	産業部門	学校部門	人
計	49	91	3	
保 健 師	2	20	3	
管 理 栄 養 士	6	5	0	
健 康 運 動 指 導 士	36	19	0	
臨 床 心 理 士	0	27	0	
労働衛生コンサルタント	0	20	0	
医 師	0	0	0	
そ の 他	5	0	0	

6. 特定保健指導

平成21年度より開始された特定保健指導の初回面接実施団体は、18団体であった。実施人数は、動機付け支援 1,043人、積極的支援 1,775人、合わせて 2,818人であった。

区 分	地域部門	産業部門	人
計	198	2,620	
動機付け支援	155	888	
積極的支援	43	1,732	

7. 諸催事の協力

平成21年度催事への協力は、12団体51回であった。

団 体	団体数	回 数	主 な 内 容
計	12	51	
市 町 村	0	0	
事 業 所	12	51	体力測定等

8. 乳房自己検診法指導

この指導は、乳房の模型を用いて「シコリ」に触れ、自分で見つけることができることを実際に体験させるものである。月1回の自己検診が、乳がんの早期発見に結びつくことを受診者に理解いただくため、乳がん検診の待ち時間等を利用して行っている。平成21年度は、3団体へ26回指導した。その他に、一日人間ドック受診時に昼の空き時間を利用して、乳房自己検診法を指導している。

9. 研修会等開催

健康教育研究会、VDT作業管理者講習会、基本健康診査従事者講習会および健康教育セミナーを開催した。詳細は次項『諸行事』『研修会等の開催』参照。

10. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムで、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・運動指導士による健康づくりを全面的にサポートしている。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」の利用が可能である。平成22年3月現在の会員数は226名である。

11. 教材貸出

学校向け、一般向け、事業所向けと各種様々な内容のビデオ・CDやパネルの貸出を行っている。
平成21年度、ビデオ・CD、パネル類あわせて60件貸出した。

表 団体内訳

団 体	計	ビデオ・CD	パネル
計	60	34	26
市町村	18	2	16
事業所	23	19	4
学 校	19	13	6

●主な貸出教材

【ビデオ・CD】

- 「食事改善！生活習慣病」
- 「VDT作業の健康チェック」
- 「VDT症候群の予防と対策」

【ヘルスパネル】

- 「健康と喫煙」
- 「肺がん」

●教材頒布

結核図書 459冊

結核予防

1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開している。

運動期間：平成21年8月1日～12月31日

後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、JA岩手県中央会、JA岩手県信連、JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局

実績：大型シール	505枚（471枚）※（ ）内平成20年度
小型シール	27,875枚（26,561枚）
募金総額	3,432,346円（3,432,416円）
内岩手県地域婦人団体協議会の実績	2,609,000円（2,609,000円）

3. 普及啓発、広報活動

■新聞掲載による普及啓発

掲載日：平成21年9月24日（木）

媒体：岩手日報朝刊 社会面

内容：結核予防週間告知、前年度シール募金報告

■結核予防週間（9月24日～30日）における街頭キャンペーン

名称：「盛岡市保健所フェスタ2008」における「結核撲滅PRコーナー」

日時：平成21年9月26日（土）

場所：盛岡市保健所

主催：盛岡市

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、
盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ配布、パネル・ポスター展示

■ポスター・チラシ等の配布

配布場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

■広報誌の配布

『健康いわて』第246号～第251号	(財団法人岩手県予防医学協会発行)	隔月 3,400部
『複十字』 No.327～332	(財団法人結核予防会発行)	隔月 400部
『健康の輪』	(全国結核予防婦人団体連絡協議会発行)	年3回 110部

4. 各種会議、研修事業

会議、研修会名	開催日	開催地	参加人数
結核予防会保健指導システム説明会	平成21年7月9～11日	神奈川県	1名
結核予防会放射線学科研修夏期コース	8月20日	東京都	1名
東北地区結核予防婦人団体幹部研修会	11月12～13日	宮城県	2名
結核予防会東北・北海道ブロック会議	11月26日	宮城県	4名
結核予防会胸部画像精度管理研究会	12月10～11日	東京都	1名
第31回結核予防会事務職員セミナー	12月14～16日	東京都	1名
JATA健康ネットワーク事業推進委員会システム・健診部会	12月16日	東京都	1名
結核予防会研究協力者連絡会議	平成22年2月20日	東京都	1名
結核予防会、日本対がん協会共催乳房超音波研修会	2月20～21日	東京都	1名
結核予防会全国支部事務局協議会総会	2月25日	東京都	1名
診療放射線技師研修会	3月10～12日	東京都	1名
第61回結核予防全国大会	3月18～19日	鳥取県	3名
健康支援者事例検討会	3月26日	東京都	1名

諸行事

1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

[開催日]

(1) 理事会

■第1回理事会 [平成21年6月11日]

理事の辞任、就任についての報告および、平成20年度の事業報告・決算報告、公益財団法人への移行について審議、議決された。

■臨時理事会 [平成21年12月28日]

公益財団法人移行後の最初の評議員選任方法、評議員選定委員会運営規則について審議、議決された。

■第2回理事会 [平成22年3月16日]

理事・監事の選任についての報告および、平成21年度収支補正予算、公益財団法人移行申請、平成22年度収支予算（案）について審議、議決された。

(2) 評議員会

■第1回評議員会 [平成21年6月9日]

理事の辞任についての報告および、理事の選任、平成20年度の事業報告・決算報告、公益財団法人への移行について審議、承認された。

■第2回評議員会 [平成22年3月11日]

平成21年度収支補正予算、公益財団法人移行申請、平成22年度事業計画（案）、平成22年度収支予算（案）および、理事・監事の選任について審議、議決された。

(3) 監事会

■第1回監事会 [平成21年5月26日]

組織運営、平成20年度事業報告書・決算報告書や法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、適正かつ不備がないことを認められた。

■第2回監事会 [平成21年11月20日]

平成21年度上半期組織運営、予算執行状況、事業進捗状況について定期監査を受け、適正かつ順調であることを認められた。また、法人財産の状況、理事の業務執行状況についても不備がないことを認められた。

2. 学術専門委員会、小委員会の開催

[開催日]

(1) 学術専門委員会

■先天性代謝異常等検査専門委員会 [平成21年4月27日]

■ウイルス肝炎対策専門委員会 [〳 11月14日]

■眼底検査専門委員会 [平成22年2月25日]

■乳がん検診専門委員会 [〳 3月3日]

■脊柱側弯検診専門委員会 [〳 3月8日]

■呼吸器系検診専門委員会 [〳 3月17日]

(2) 小委員会

■脳ドック小委員会 [平成21年7月23日]

■心臓検診小委員会 [平成22年3月2日]

■CR・CT検診小委員会 [〳 3月30日]

3. 関係者、関係機関との打ち合わせ、懇談会等

[開催日]

- マンモCADシステム説明会 [平成21年6月11日]
- 胃部読影検討委員会 [〳 7月27日]
- CR検診実施市町村意見交換会 [平成22年3月8日]
- 胃部読影委員会 [〳 3月11日]
- 県南センター胃部読影検討会 [〳 3月19日]

4. 関係機関担当者会議の開催

[開催日、開催地、参加人数]

- 平成21年度市町村健康推進担当部課長会議及び平成21年度市町村・JA健康推進担当部課長会議
[平成21年10月28日、盛岡市、130人]

行政報告：「特定健康診査・特定保健指導の課題および対応策」

岩手県保健福祉部 保健衛生課 主 査 千田 邦博

「介護予防（生活機能評価）の現状と課題について」

岩手県保健福祉部 長寿社会課 主 査 琵琶坂 和江

事業説明：平成20年度健診・検査実施状況

平成20年度健診・検査実施及び予約状況

平成21年度住民健診有所見率

平成22年度健診・検査実施及び予約状況

平成21・22年度健診実施状況比較（4月～8月）

平成22年度事業計画について

特定保健指導について

報告事項：平成20年度活動報告について

協議事項：平成22年度事業計画について

講 演：「こころの時代 ～うるおいのある地域社会をめざして～」

岩手県立大学 社会福祉学部 福祉臨床学科長

教 授 青木 慎一郎

- 平成21年度学校保健連絡会議

[平成21年11月19日、盛岡市、125人]

報告事項：平成20年度学校保健分野健診・検査実施状況報告

協議事項：平成22年度学校保健事業計画骨子（案）

平成22年度変更事項

講 演：「メタボリックシンドロームと小児肥満」

岩手県立中央病院診療部 小児・周産期センター長(兼)救急医療部

次 長 前多 治雄

- 平成21年度保健活動検討会

[平成22年3月8日、盛岡市、170人]

報告事項：平成20年度健診結果・追跡調査結果

平成21年度健診・検査実施状況

平成22年度地域事業計画骨子

行政報告：「健康増進事業について」

岩手県保健福祉部 保健衛生課 主 査 千田 邦博

「介護予防事業について」

岩手県保健福祉部 長寿社会課 主 査 琵琶坂 和江

事業説明：平成20年度特定保健指導の実施状況

次期健診システムの概要

講 演：「保健指導《今》やるべきこと、《明日》への期待」

あいち健康の森健康科学総合センター

センター長（兼）健康開発部長 津下 一代

5. 研修会・講演会等の開催

[開催日、開催地、参加人数]

■VDT作業管理者研修会

[平成21年7月1日、盛岡市、16人]

テーマ：「管理者の役割と心構え」「労働衛生管理の概論」

財団法人岩手県予防医学協会 阿部 千恵子

「VDT作業の健康への影響と健康管理」

岩手大学 保健管理センター 教授 立身 政信

「作業環境管理・作業管理」「VDT機器及び作業環境の維持管理」

財団法人岩手県予防医学協会 港 真里

「VDT作業従事者に対する労働衛生教育の方法」

財団法人岩手県予防医学協会 高橋 るり子

■第25回健康教育研究会

[平成21年7月23日、盛岡市、39人]

テーマ：「食と健康を支えるコミュニケーション力」～食コーチングの視点から～

パルマローザ 主宰 景山 なお子

■学術講演会

テーマ：「乳がんに負けないために」

[平成21年9月27日、金ケ崎町、70人]

講 演：「乳がん検診と薬物療法について」

岩手県立胆沢病院 乳腺外科長 竹花 教

テーマ：「肝疾患診療ネットワーク研修会」

[平成21年11月14日、盛岡市、55人]

講 演：「ウイルス性肝炎の現状と対策について」

あべ菜園内科クリニック 院長 阿部 弘一

「IFN治療と、その後のフォローをどうするか」

岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野 助教 宮坂 昭生

基調講演：「岩手県のウイルス肝炎対策の歩み ―検査の開始から肝炎対策まで―」

広島大学名誉教授

医療法人広島健康会アルパーク検診クリニック 名誉院長 吉澤 浩司

■健康教育セミナー

[平成22年1月8日、盛岡市、32人]

テーマ：「子供のやる気と可能性を引き出すコーチング」

PHP認定 上級ビジネスコーチ 平野 順子

■第14回医用超音波基礎講習会

[平成22年1月9日、盛岡市、49人]

■特定健康診査等従事者講習会
講義・実習：「腹囲測定について」

[平成22年2月17日、盛岡市、70人]

財団法人岩手県予防医学協会 金野 はるみ
島山 香
箱崎 千都子
河辺 郁子
川村 洋子

「胸部CT（内臓脂肪）について」

財団法人岩手県予防医学協会 藤原 幸治
釜沢 政慶

講演：「脂肪について ～メタボリック症候群対策として～」

岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座

講師 大澤 正樹

6. 普及啓発および広報活動（再掲）

(1) 普及啓発活動

- 結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力
- ポスター・チラシ等の配布

(2) 広報活動

■広報誌の配布

『健康いわて』第246号～第251号（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月 3,400部
『複十字』 No.327～332（財団法人結核予防会発行） 隔月 400部
『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行） 年3回 110部

7. 結核対策マネジメント指導者育成コース訪日団の受け入れ [受入期間、人数]

訪問先と主な研修内容

[平成22年6月2日～5日、20人]

■岩手県庁

表敬訪問、岩手県の保健行政について研修

■花巻市

住民健診見学

■平泉町

町の保健行政概要について研修

■岩手県央保健所

岩手県央保健所の業務内容について研修

施設見学

■国立病院機構盛岡病院

病院概要説明

施設見学

■岩手県予防医学協会

業務概要説明

施設見学

8. 中国地域保健農村生活改善研修訪日団の受け入れ

[受入期間、人数]

訪問先と主な研修内容

[平成21年11月8日～13日、15人]

■岩手県庁

表敬訪問、岩手県の保健行政について研修

岩手県農林水産部で農業技術、農村生活改善等の概要研修

■西和賀町

町の保健活動について研修

長瀬野地区新生活運動について研修

農協取り組み、農業施設視察等の研修

沢内病院見学

■遠野市

夢を咲かせる女性の会における研修

■宮守川上流生産組合

集落営農の実践について

■岩手中央農協

農家見学

■花巻市

住民健診活動見学

■岩手県予防医学協会

9. 職員研修

[実施回数、参加人数]

■内部研修会の実施

交通安全講習会（新人職員、新採用臨時職員）

[2回、63名]

安全運転講習会（本所にて）

[2回、270名]

（県南センターにて）

[1回、64名]

中堅職員研修会

[2回、110名]

第30回研究発表会

[1回、142名]

講演：「乳がん検診の動向 ―岩手県でより多くの乳がん死を減らすために―」

岩手県立中央病院 乳腺甲状腺外科長 大貫 幸二

■外部研修会への参加

〈主催別内訳〉

財団法人予防医学事業中央会関係研修会

[5回、13名]

財団法人結核予防会関係研修会

[6回、6名]

全国労働衛生団体連合会関係研修会

[13回、35名]

日本作業環境測定協会関係研修会

[7回、9名]

その他

[112回、238名]

〈職種別内訳〉

医師関係

[6回、6名]

保健師関係

[5回、6名]

臨床検査技師関係

[36回、52名]

放射線技師関係

[20回、35名]

作業環境測定士関係

[8回、10名]

看護師関係	[4回、 6名]
栄養士関係	[2回、 2名]
事務関係	[62回、119名]

10. 研究発表等

[開催日、開催地]

- 作業環境測定事例研究発表会 [平成21年6月26日、宮城県]
『新旧管理濃度による測定結果評価の比較 –管理濃度改正を受けて–』 小笠原 雄太
- 日本消化器がん学会 第47回東北地方会 [平成21年7月11日、福島県]
『経腹超音波検査により偶発的に発見された卵巣腫瘍の検討』 佐藤 務
- 第68回日本公衆衛生学会総会 [平成21年10月20～24日、奈良県]
『血清 γ -GTP値と総死亡リスクならびに脳卒中発症リスクについての関連』 久保 祐子
- 第96回岩手腹部超音波研究会 [平成21年10月23日、盛岡市]
『人間ドックで経年的に腫瘍径の増大を示した腎腫瘍の1例』 佐藤 務
- 日本超音波検査学会 第11回東北地方会 [平成21年12月6日、宮城県]
『乳房超音波検診の要精査基準に関する検討』 相馬 明美
- 第20回日本疫学会総会 [平成22年1月9～10日、埼玉県]
『1年間の体重変化が血清脂質に与える影響』 斗成 陽子
- 第44回予防医学技術研究会議 [平成22年2月19～20日、千葉県]
『慢性閉塞性肺疾患（COPD）早期発見に向けた取組み』 穴沢 真由美
『腹囲測定手技の問題と対策』 畠山 香
- 第21回岩手公衆衛生学会学術総会 [平成22年2月20日、盛岡市]
『慢性閉塞性肺疾患（COPD）の判定基準とCOPD質問の基礎的検討』 本堂 千津子
- 日本消化器がん検診学会 東北地方会超音波部会 第6回東北セミナー [平成21年3月13日、宮城県]
『腹部超音波検査で判断に苦慮した卵巣のう腫の一例』 金子 義則
『腹部超音波検査で経験した後腹膜腫瘍の二例』 山田 毅彦
『腹部超音波検査にて検査中に水腎症所見が一例』 半田 有希
- 論文 [予防医学ジャーナル研究論文集より]
『乳がん自己検診の実施率向上をめざして
–疑似乳房を用いたアンケート調査結果から–』 三浦 由美

11. 事業年報の発行

- 平成20年度事業年報 Vol.38 の発行 2,050部

12. 各種表彰の受賞

■財団法人予防医学事業中央会関係

平成21年10月1日、予防医学事業推進全国大会の席上で齋藤学、腰山誠が奨励賞を受賞

■社団法人全国労働衛生団体連合会関係

平成21年5月25日、平成21年度全衛連通常総会の席上で小山富子が功績賞を受賞

平成22年3月26日、平成21年度第2回全衛連通常総会の席上で今野拓夫が功績賞を、山口ゆかり、藤原幸治が奨励賞を受賞

■その他の団体

平成21年10月31日、第50回東北医学検査学会席上で松井清隆が功労賞を受賞

